

第77期

# 中間報告書

(2023年4月1日から  
2023年9月30日まで)

## CONTENTS

株主の皆様へ .....	1
業績ハイライト .....	3
財務データ .....	5
トピックス .....	7
会社の概要 .....	9
株式の状況 .....	10
取締役及び監査役／執行役員 .....	10



日本ケミコン株式会社

証券コード：6997

## 株主の皆様へ

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに「第77期中間報告書」をお届けし、当第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

当社は、2023年度に入り、米国で提起された集団民事訴訟のクラス原告に参加しない複数の原告との間で多額の和解金を支払うことに合意しています。これにより大きな損失を計上し、自己資本が毀損している状況です。このような状況におきましても第10次中期経営計画に定める諸施策を着実に実行するため、2023年12月22日に臨時株主総会を招集し、種類株式の発行による資金調達、取締役1名の選任等について決議していただくことを計画しております。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長  
上山 典男

2023年12月

### 当第2四半期連結累計期間の概況

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国では比較的良好な雇用環境を背景にサービス消費等の個人消費が堅調に推移するなど景気は回復基調で推移いたしました。一方、欧州ではウクライナ情勢の長期化のもと個人消費が低迷するなど、景気は総じて低調に推移いたしました。また、中国ではゼロコロナ政策の解除により一時的に個人消費が回復したものの、その後の輸出の停滞や不動産需要の落ち込みなどにより回復ペースが鈍化いたしました。日本国内においては景気は緩やかな回復傾向で推移いたしました。

当社グループを取り巻く市場環境につきましては、自動車関連市場では自動車メーカーの半導体不足が解消されつつあることに加え、円安を背景に輸出が好調に推移し、また電装化のための部品需要が高まるなど総じて堅調に推移しました。産業機器関連市場は、インフレ対策として各国での金利引き上げを背景とした景気の先行き不安により企業の設備投資は鈍化しました。また、ICT関連市場は、パソコンやデータセンター向けサーバーの在庫調整が続きました。

このような経営環境のもと、当社グループは第10次中期経営計画に定める諸施策を着実に実行してまいりました。

販売面では、引き続き長期的な成長が見込まれる車載市場やICT市場等に向けた高付加価値な製品の拡販に努めてまいりました。ハイブリッドコンデンサの生産能力の増強を図るため、ケミコン東日本株式会社の

宮城工場において新たな製造棟の建設に着手するなど、高収益で高付加価値な製品の生産能力の増強を図ってまいりました。

製品開発では、基板自立形アルミ電解コンデンサ「KHUシリーズ」と「LHUシリーズ」にサーバー電源用途などに適した電圧範囲やサイズの製品を新たに開発し、製品ラインアップを拡充いたしました。また、大型設備等の高電圧・大電流が求められる用途に向け、電気二重層キャパシタモジュールを開発いたしました。24セルの電気二重層キャパシタを直列に接続した状態でパッケージ化して販売することで、高電圧システムの構築に係る工数削減に貢献することが期待できます。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績につきましては、売上高は803億41百万円（前年同期比4.3%増）、営業利益は51億23百万円（前年同期比5.6%増）、経常利益は53億20百万円（前年同期比10.8%増）となりました。しかしながら、独占禁止法関連損失の計上などにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は227億81百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純損失5億14百万円）となりました。

なお、このような状況を踏まえ当期の中間配当につきましては、誠に遺憾ながら見送らせていただくことといたしました。株主の皆様には深くお詫び申し上げます。

## 部門別の状況

当第2四半期連結累計期間における事業の部門別の状況は次のとおりであります。

1. コンデンサ部門 (756億34百万円、売上総額の94.1%)  
車載関連の需要が増加したことなどにより、当部門の売上高は前年同期比7.3%の増加となりました。
2. 機構・その他部品部門 (18億72百万円、売上総額の2.3%)  
メカ部品の需要が減少したことなどにより、当部門の売上高は前年同期比11.6%の減少となりました。
3. コンデンサ用材料部門 (21億41百万円、売上総額の2.7%)  
アルミ電解コンデンサ用電極箔の需要減少などにより、当部門の売上高は前年同期比34.5%の減少となりました。
4. その他の部門 (6億92百万円、売上総額の0.9%)  
リセール品の需要減少などにより、当部門の売上高は前年同期比41.3%の減少となりました。

## 通期の見通し

今後の見通しとしましては、国内ではコロナ禍からの経済活動の正常化が一段と進むことで、雇用環境の改善を背景に個人消費が底堅く推移するなど、景気は緩やかに回復すると見込まれます。一方で、世界経済全体としては、各国の金融引き締め政策の影響や泥沼化するウクライナ情勢の影響など、景気の下振れリスクは依然として存在しており、当社グループを取り巻く経営環境は予断を許さない状況が続くものと予想されます。

当社グループにおきましては、引き続きハイブリッドコンデンサを中心とする高付加価値製品の拡販や工場の生産性の向上を始めとする第10次中期経営計画に定める諸施策を着実に実行してまいります。

2023年10月1日には当社の連結子会社であるケミコン精機株式会社をケミコン東日本株式会社へ吸収合併いたしました。また、同日付でケミコン長岡株式会社をケミコン山形株式会社へ吸収合併し、商号をケミコンデバイス株式会社に変更いたしました。これにより関連する事業や間接部門を統合し、間接コストの低減と事業運営のスピードアップを図ってまいります。

なお、第10次中期経営計画の各種重点施策の着実な実行のため種類株式の第三者割当による資金調達を計画しております。本件は2023年12月22日に予定されている臨時株主総会の決議を経て正式に効力を生じることとなります。加えて、主に中期経営計画における成長分野への設備投資資金に充当するため普通株式の第三者割当による資金調達を実施いたしました。

当社及び当社の子会社であるUnited Chemi-Con, Inc. (以下「当社」といいます) は、電解コンデンサ及びフィルムコンデンサの取引に関して、米国で提起された集団民事訴訟のクラス原告 (直接購入者型・間接購入者型) と和解しておりますが、別途、クラス原告 (直接購入者型) に参加しない複数の原告(以下「個

別原告」といいます)との間で民事訴訟が係属しております。

かかる個別原告のうち、Avnet, Inc. から損害賠償を求め提起されていた民事訴訟について、2023年6月、米国カリフォルニア州北部地区連邦地方裁判所において、当社らに対し150.677百万米ドルの支払を命じる判決が出され、当社らは当該判決を不服として、米国連邦第9巡回区控訴裁判所に控訴を提起しました。2023年7月、当社らは損害賠償等の責任を認めておりませんが、諸般の事情を総合的に勘案した結果、Avnet, Inc. 及びその他3社との間で和解金総額125百万米ドルを支払うことに合意し、和解金を支払いました。

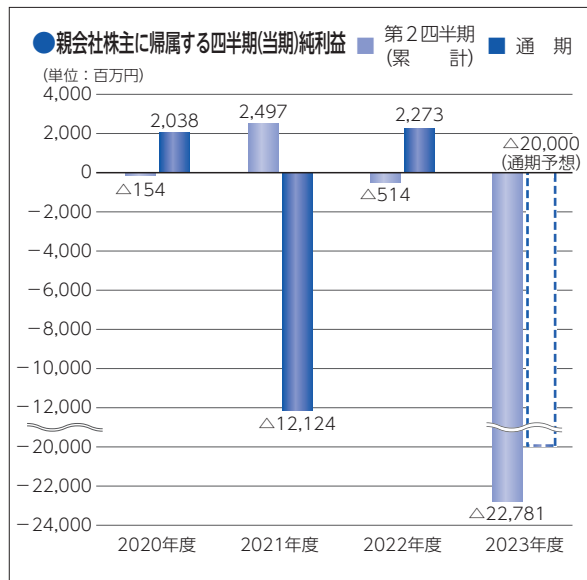
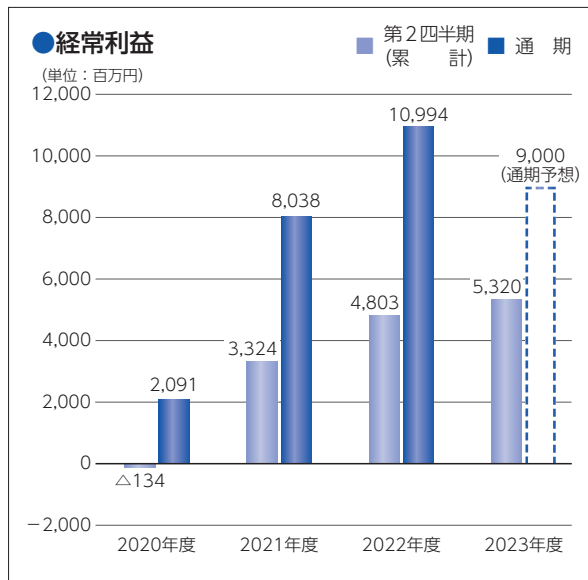
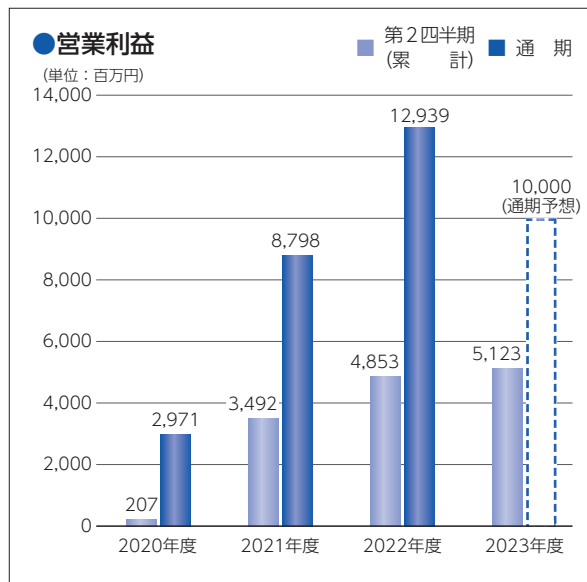
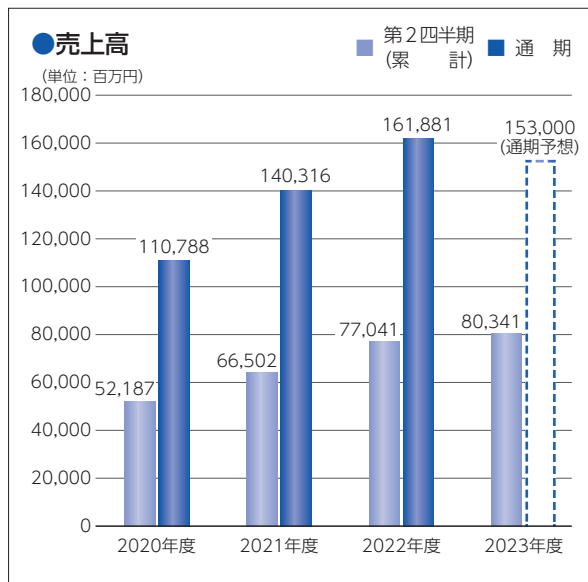
なお、当該和解金の支払に伴い、上記の判決に基づき当社らに生じていた150.677百万米ドルの支払義務及び当社らが負担すべきAvnet, Inc. の弁護士費用の支払義務はいずれも免除されました。

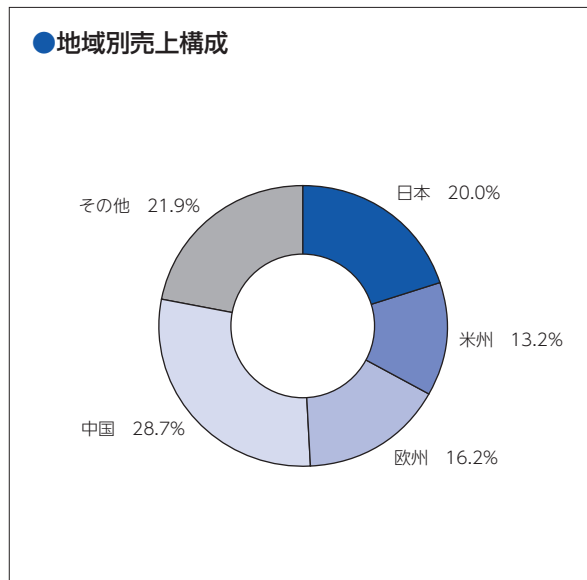
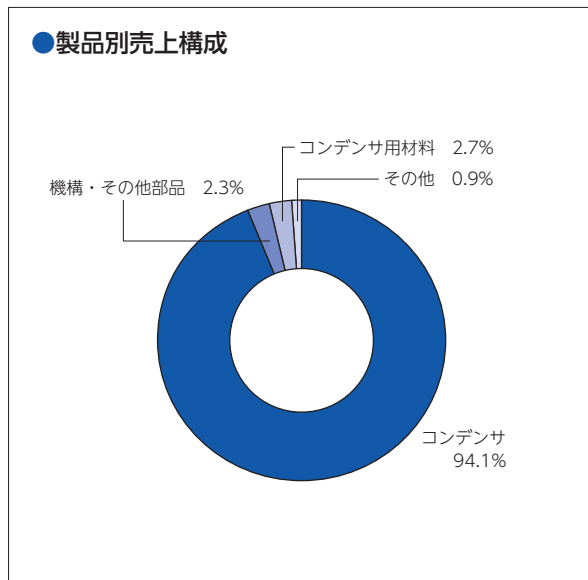
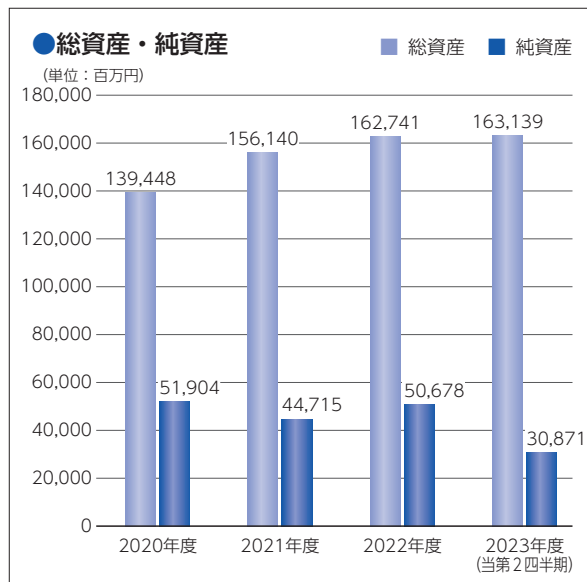
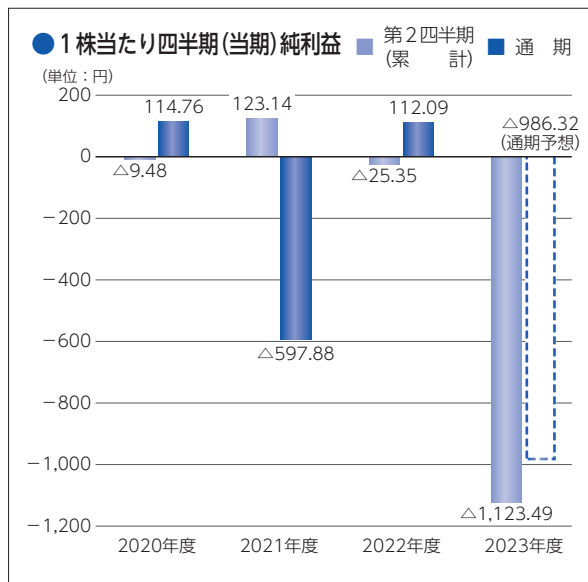
また、2023年9月、当社らは個別原告のうち和解が未了であったArrow Electronics, Inc.との間でも和解金総額75百万米ドルを支払うことに合意し、和解金を支払いました。

これにより、米国において当社らに提起されていた電解コンデンサ及びフィルムコンデンサに関する米国反トラスト法違反等について損害賠償等を求める民事訴訟は全て終結いたしました。

2024年3月期 (2023年度) の通期連結業績予想につきましては、売上高1,530億円 (前期比5.5%減)、営業利益100億円 (前期比22.7%減)、経常利益90億円 (前期比18.1%減)、親会社株主に帰属する当期純損失200億円 (前期親会社株主に帰属する当期純利益22億73百万円) を見込んでおり、下半期の為替レートは1米ドル140円を前提としております。

# 業績ハイライト (連結)





## 四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期連結会計期末	前連結会計年度末
	2023年9月30日	2023年3月31日
<b>資産の部</b>		
① 流動資産	97,216	97,758
現金及び預金	27,582	26,141
受取手形及び売掛金	31,838	32,555
棚卸資産	32,377	33,003
その他	5,476	6,117
貸倒引当金	△57	△59
固定資産	65,922	64,983
有形固定資産	45,176	41,880
無形固定資産	2,236	2,146
投資その他の資産	18,508	20,957
資産合計	163,139	162,741

### Point①

流動資産は、前連結会計年度末比で5億41百万円減少し、972億16百万円となりました。主な要因は、受取手形及び売掛金の減少7億16百万円などであります。

科目	当第2四半期連結会計期末	前連結会計年度末
	2023年9月30日	2023年3月31日
<b>負債の部</b>		
流動負債	76,825	59,181
支払手形及び買掛金	7,760	9,850
短期借入金	44,357	23,698
その他	24,706	25,632
固定負債	55,442	52,881
長期借入金	45,313	42,022
退職給付に係る負債	3,905	3,784
その他	6,223	7,075
② 負債合計	132,267	112,062
<b>純資産の部</b>		
株主資本	17,229	40,012
その他の包括利益累計額	13,170	10,244
非支配株主持分	471	421
③ 純資産合計	30,871	50,678
負債・純資産合計	163,139	162,741

### Point②

負債は、前連結会計年度末比で202億4百万円増加し、1,322億67百万円となりました。主な要因は、借入金の増加239億50百万円などであります。

### Point③

純資産は、前連結会計年度末比で198億7百万円減少し、308億71百万円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上などであります。なお、自己資本比率は前連結会計年度末の30.9%から18.6%となりました。

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間	前第2四半期連結累計期間
	2023年4月1日から 2023年9月30日まで	2022年4月1日から 2022年9月30日まで
④ 売上高	80,341	77,041
売上原価	63,247	60,255
売上総利益	17,093	16,786
販売費及び一般管理費	11,970	11,932
⑤ 営業利益	5,123	4,853
営業外収益	878	615
営業外費用	681	665
経常利益	5,320	4,803
特別利益	2,466	0
特別損失	29,287	4,345
⑥ 税金等調整前四半期純利益(△純損失)	△21,500	458
法人税、住民税及び事業税	1,341	1,003
法人税等調整額	△59	△23
四半期純損失	△22,783	△522
非支配株主に帰属する四半期純損失	△1	△8
親会社株主に帰属する四半期純損失	△22,781	△514

### Point④

売上高は、車載関連市場では電動化・電子化の進展により部品需要が堅調に推移したことなどから、前年同期比で33億円増加し、803億41百万円となりました。

### Point⑤

営業利益は、高付加価値品の拡販、価格は正による収益性の改善などにより、前年同期比で2億69百万円増加し、51億23百万円となりました。

### Point⑥

税金等調整前四半期純損失は、特別損失に独占禁止法関連損失292億76百万円を計上したことなどにより、215億円となりました。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当第2四半期連結累計期間	前第2四半期連結累計期間
	2023年4月1日から 2023年9月30日まで	2022年4月1日から 2022年9月30日まで
⑦ I 営業活動によるキャッシュ・フロー	△23,772	△6,816
⑧ II 投資活動によるキャッシュ・フロー	705	△3,159
⑨ III 財務活動によるキャッシュ・フロー	22,970	8,340
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	1,536	1,751
V 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,440	116
VI 現金及び現金同等物の期首残高	26,135	24,754
VII 現金及び現金同等物の四半期末残高	27,576	24,870

### Point⑦

営業活動によるキャッシュ・フローは、237億72百万円の支出となりました。主な収入は減価償却費33億2百万円などであり、主な支出は独占禁止法関連支払額321億95百万円であります。

### Point⑧

投資活動によるキャッシュ・フローは、7億5百万円の収入となりました。主な収入は、投資有価証券の売却による収入43億72百万円、有形固定資産の取得による支出35億6百万円などによるものであります。

### Point⑨

財務活動によるキャッシュ・フローは、229億70百万円の収入となりました。主な収入は、借入金による収入236億75百万円などによるものであります。

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 新工場棟の建設

日本ケミコングループでは、2023年度から2025年度の期間で第10次中期経営計画に取り組んでいます。目指すべき姿に「適応力（レジリエンス）強化による質の高い成長」を掲げて、困難な状況にあってもそれに適応し、乗り越え、自ら成長し、将来の目標に対して積極的に向き合う力を身につけてまいります。

当社グループの主力製品アルミ電解コンデンサは、電気の流れを調節、安定化する機能を持った電子部品で、民生機器から産業機器まで幅広く使われています。当社グループの強みは、材料技術に裏付けられた高品質で高付加価値な製品開発力と、ワールドワイドな製造、販売体制による安定供給力にあります。第10次中期経営計画においては、その強みを社会課題の解決につなげるべく、「高付加価値の製品群の提供と生産性向上で高収益体質を目指す」ことを基本方針としています。

カーボンニュートラルの実現など環境課題への取り組みを背景に自動車のEV化が進む中、車載用途のアルミ電解コンデンサには高品質で大容量、低損失な製品が求められています。こうした中、当社グループが生産する導電性高分子ハイブリッドアルミ電解コンデンサ（以下、ハイブリッドコンデンサと呼びます）の需要が拡大を続けています。

高収益な高付加価値製品に生産リソースを集中し、将来の需要に対応した増産体制を確立するべく、このたびハイブリッドコンデンサ生産のための新工場棟を、ケミコン東日本株式会社宮城工場に建設することにいたしました。

新工場は2024年秋から稼働する予定で、これにより2025年度のハイブリッドコンデンサの売上高は2022年度比で1.5倍になる見通しです。



需要が拡大している導電性高分子ハイブリッドアルミ電解コンデンサ



## 導電性高分子コンデンサに高容量品を追加

チップ形導電性高分子アルミ固体電解コンデンサ「PXGシリーズ」に高容量化アイテムを追加して、製品体系の充実を図りました。パソコンやサーバーの小型化、薄型化が進む中、電力を供給する電源セットにも小型化、省スペース化が求められています。今回、電源二次側に使用される既存製品「PXGシリーズ」に、静電容量を従来品から最大40%高容量化した製品を追加しました。これによりコンデンサの使用個数削減による機器の小型化に貢献いたします。



今回追加された「PXGシリーズ」

---

## アルミ電解コンデンサの製品体系を拡充

スイッチング電源や汎用インバータに使用される基板自立形アルミ電解コンデンサ「KHUシリーズ」および「LHUシリーズ」に、新規電圧範囲と新規製品サイズを追加しました。追加した電圧は、サーバー電源用途に最適な400V～450Vで、製品サイズもニーズに合わせて高さ65mm～80mmの製品を追加しました。また、両シリーズは従来品からの長寿命化も実現しています。今回の製品体系の拡充により用途への最適化を図ったことで、両シリーズの採用拡大が見込まれます。



サーバー電源用途に最適な  
「KHUシリーズ」と「LHUシリーズ」

## 会社の概要 (2023年9月30日現在)

商 号	日本ケミコン株式会社 (NIPPON CHEMI-CON CORPORATION)	
創 業	1931年8月	
設 立	1947年8月	
資 本 金	243億1,062万円	
従 業 員 数	連結：5,896名 単独：956名	
ホームページ	<a href="https://www.chemi-con.co.jp/">https://www.chemi-con.co.jp/</a>	
当社グループの 主な事業内容	電子機器用各種コンデンサ、コンデンサ用材料、機構・その他部品等の製造・仕入・販売	
主な事業所		
本 社	東京都品川区大崎5-6-4	〒141-8605 TEL: 03-5436-7711
製造拠点	高萩工場 茨城県高萩市安良川字下ノ内363	〒318-8505 TEL: 0293-23-2511
	新潟工場 新潟県北蒲原郡聖籠町東港6-5525-21	〒957-0101 TEL: 025-256-1251
営業拠点 (営業所)	北関東 (栃木県宇都宮市)、静岡 (静岡県静岡市)、名古屋 (愛知県名古屋市)、大阪 (大阪府吹田市)、福岡 (福岡県福岡市)	
そ の 他	福島事業所 (福島県西白河郡矢吹町) 神奈川研究所 (神奈川県川崎市)	

### 主なグループ会社

製造拠点 国内	ケミコン東日本(株) (宮城県大崎市)
海外	Chemi-Con Materials Corporation (米国)、P.T.Indonesia Chemi-Con (インドネシア)、Chemi-Con (Malaysia) Sdn.Bhd. (マレーシア)、台湾佳美工股份有限公司 (台湾)、貴弥功(無錫) 有限公司 (中国)
営業拠点 海外	United Chemi-Con, Inc. (米国)、Europe Chemi-Con (Deutschland) GmbH (ドイツ)、Singapore Chemi-Con (Pte.) Ltd. (シンガポール)、Hong Kong Chemi-Con Ltd. (香港)、上海貴弥功貿易有限公司 (中国)

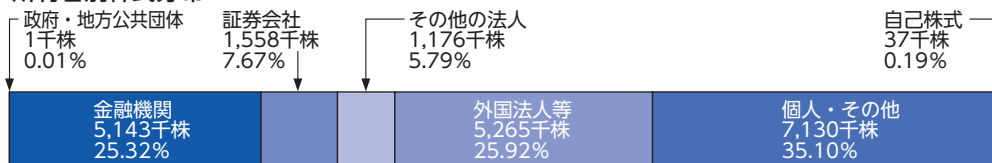
## 株式の状況 (2023年9月30日現在)

- (1) 発行可能株式総数 39,613,200株  
 (2) 発行済株式の総数 20,314,833株  
 (3) 株 主 数 14,382名  
 (4) 大 株 主 (上位10名)

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	2,403千株	11.85%
野村証券株式会社自己振替口	527千株	2.60%
株式会社三菱UFJ銀行	524千株	2.59%
日本生命保険相互会社	513千株	2.53%
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	486千株	2.40%
NORTHERN TRUST GLOBAL SERVICES SE, LUXEMBOURG RE CLIENTS NON-TREATY ACCOUNT	411千株	2.03%
MSIP CLIENT SECURITIES	403千株	1.99%
株式会社SBI証券	396千株	1.96%
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	381千株	1.88%
株式会社三井住友銀行	334千株	1.65%

(注) 持株比率は自己株式 (37,679株) を除いて算出しております。

### (5) 所有者別株式分布



## 取締役及び監査役／執行役員 (2023年9月30日現在)

代表取締役社長	社長執行役員	上 山 典 男	常 勤	監 査 役	三 浦 和 人
取締役専務執行役員		石 井 治	監 査 役	森 田 史 夫	
取締役上席執行役員		岩 田 巧	監 査 役	土 居 正 明	
取締役上席執行役員		今 野 健 一	上 席 執 行 役 員	野 上 勝 憲	
取締役		川 上 欽 也	執 行 役 員	阿 邊 克 明	
取締役		宮 田 鈴 子	執 行 役 員	若 林 洋 之	
取締役		吉 田 浩 浩	執 行 役 員	後 剛 志	
常 勤 監 査 役		柴 田 信 一			

- (注) 1. 川上欽也氏、宮田鈴子氏及び吉田浩氏は、社外取締役であります。  
 2. 森田史夫氏及び土居正明氏は、社外監査役であります。

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
定時株主総会の基準日	毎年3月31日
公告方法	電子公告 当社ホームページ <a href="https://www.chemi-con.co.jp/koukoku/">https://www.chemi-con.co.jp/koukoku/</a> (ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)
証券コード	6997 (東京証券取引所 プライム市場)
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL: 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

### (ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせ下さい。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意下さい。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせ下さい。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

